

# 地域おこし 協力隊通信

地域おこし  
協力隊員

奥村 純一

(移住支援担当)



こんにちは奥村です。この原稿を書いております7月末現在は酷暑、さらには空模様不安定な日々ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

柴崎新町長体制のもと、ウクライナのチャリティコンサートでは、私も同僚の松藤さんと得意分野でお手伝い。

長年写真撮影の仕事に携わっておりますが、イベントなど催しの記録というのは、雰囲気伝える為や、継続してイベントを行うときは最も大切な要素となります。ポスターやチラシ、ネットなどのメディアでも、しっかりとした写真や映像の要素があるのとないのでは、以降同様の催しをする際の告知などでも、その効果は変わってきます。今回はコンサートということで、音を出さない、お客様の視界を遮らないなど制約があるなか、長年の経験によりベストなアングルを見つけていくことができま

た。そうしたこともあり町報6月号の表紙は私が撮影した写真を使っていた。町をあげての人的支援に一役買えたことを嬉しく思っております。

そして5月には、私の企画したイベント「皆野サンデーピクニック」を日野沢小学校の跡地である、日野沢川ふれあい広場にて行いました。

「笑顔で溢れていた小学校跡地に再び人々の笑顔を」ということで、「ピクニック」を開催。若い方にはピンとこないかもしれませんが、1960年代から我が国もマイカー時代へと突入。そして高度経済成長期には欧米で人気のレジャーも流行します。観光地や真夏の海、冬はスキーといった楽しみも盛んになるので、通年楽しめることとしてピクニックは大流行。

今回はその時代の再現です。遠くは愛媛県から1963年製のダットサンの家族が参加、製造されて94年経過した1928年製のオースチンが今回最古の参加車両でした。

また、ちびエフエムのパーソナリティとしても活躍している糸川さんと2人組「ミルクオアダーク」。ペトロールズほか、東京事変や星野源さんのバンドで活躍しているギタースト長岡亮介さんも、イベン

ト趣旨に賛同し弾き語りを行い会場を盛り上げてくれました。

公的機関の調べでは、20年後には5,000人を切るといふ皆野町の人口。実はコロナ以降の生活様式の変化は追い風でもあります。

テレワーク在宅ワークが増えてきたコロナ以降、都心を離れて暮らす人も増えております。月一度の出社も都心まで約2時間の皆野はそうした対象にもなります。

私が皆野町に来るようになった4年前から、私と同様に趣味の場所を皆野に持ちたい移住の前にまずは2拠点で生活してみたいという知人からのリクエストは10件以上もあります。

しかし残念なことに、空き家はたくさんあるのに、貸家がないため、皆野町を候補としてくれないと成立しません。

同様の過疎地域はそうしたことに反応し対応をしております。いち早く行動している地域はそれなりの効果を上げています。そうした地域に遅れを取らず、すべての町民が意識し、行動することがいまい何よりも必要なことではないかと、私自身も皆野町民のひとりとして考えております。皆野に人々が集まることにより、意識し認知してもらう

為に、これからも継続してイベントを行う予定です。



参加者沢山の笑顔で包まれた日野沢小学校跡



会場の雰囲気に溶けこむ演奏はミルクオアダークのふたり



知り合った仲間たちと再来を約束し日野沢川をあとにする参加者



ふれあい広場でそれぞれリラックスした1日を楽しみます